

「弾道ミサイル」に関する意識調査結果(概要)

■概要

○調査目的

今日の国際情勢に鑑み、万が一の事態に備えた府民の危機意識を醸成することが急務となっているが、地震・風水害などの自然災害に比べ、ミサイル攻撃等の武力攻撃事態についてはイメージしがたく、府民に対する意識醸成のための周知がより重要である。そのため、周知を的確かつ効果的に実施するため、府民の武力攻撃事態に関する認知度等の調査を行う。

○調査対象

- ・大阪府在住の20～90歳までの男女
- ・5区分（20代、30代、40代、50代、60代以上）の男女各100サンプルで計1,000サンプル

○実施期間

令和5年1月24日から1月25日

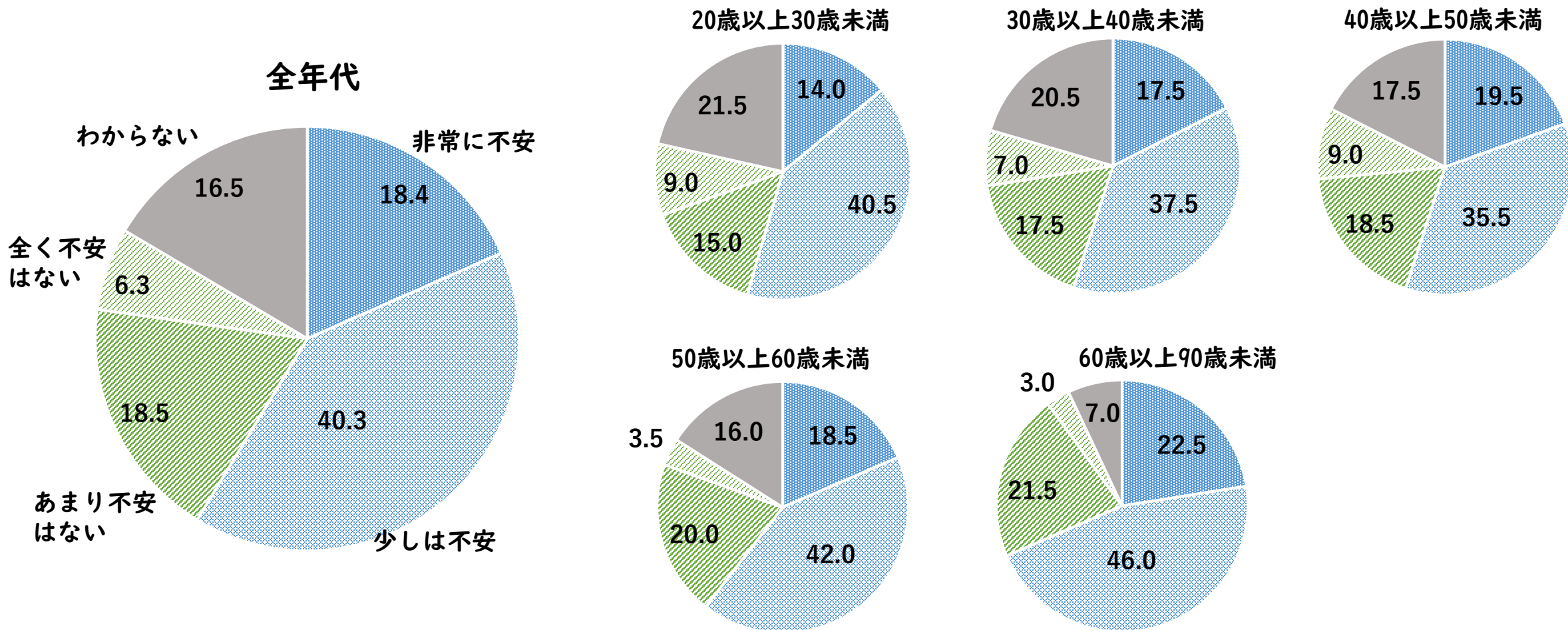
○調査内容

- ・弾道ミサイルへの不安
- ・Jアラートに対する認知度
- ・Jアラート発令時に取るべき行動に対する認知度
- ・より効果的な広報活動方法（普段の情報収集方法）

■留意事項

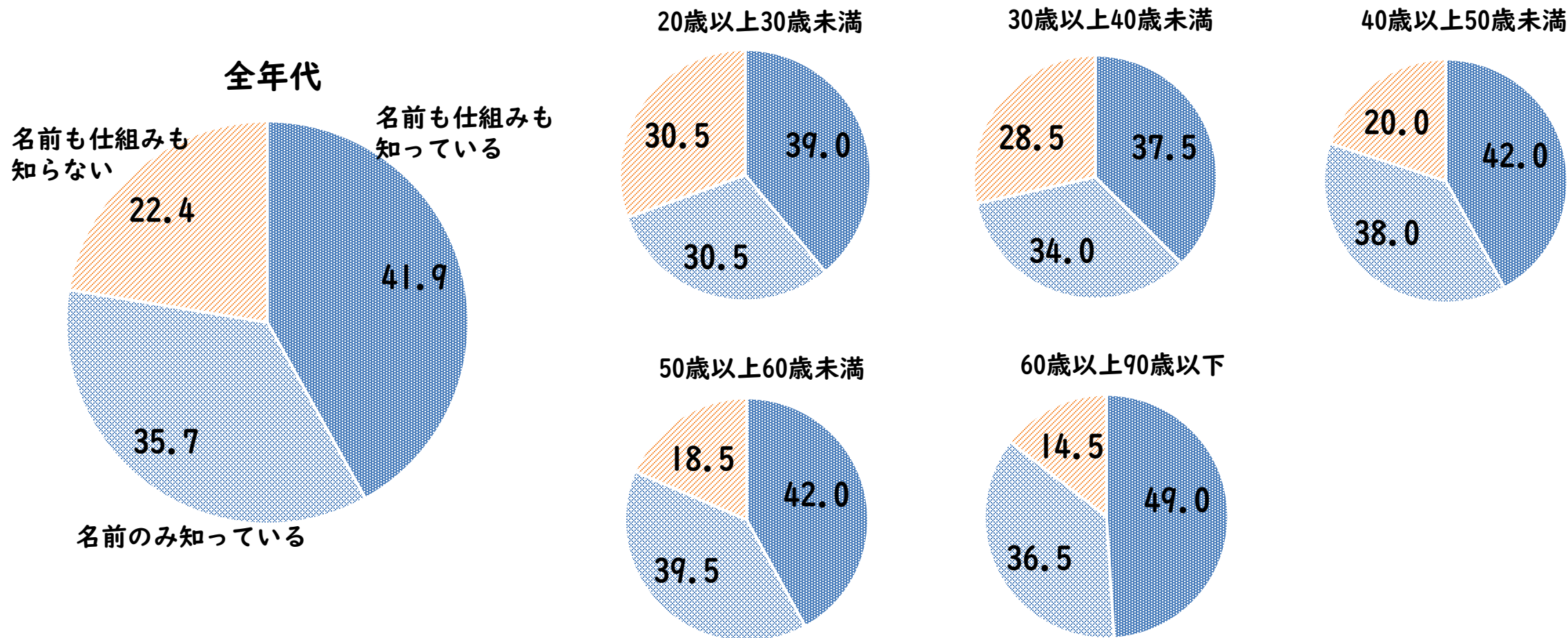
- 当意識調査は「おおさかQネット」を使用している。
- 「おおさかQネット」の回答者は、民間調査会社のインターネットユーザーであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。
そのため、アンケート調査の「単純集計表」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。
- 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
- クロス集計表中の上段の数値は人数(n)、下段の数値は割合(%)を示す。
- 府内市町村の区分は次のとおり。
 - 大阪市域：大阪市
 - 北部大阪地域：豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
 - 東部大阪地域：守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
 - 南部大阪地域：堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村

弾道ミサイルの飛来に対してどのように感じていますか。(単位：%)



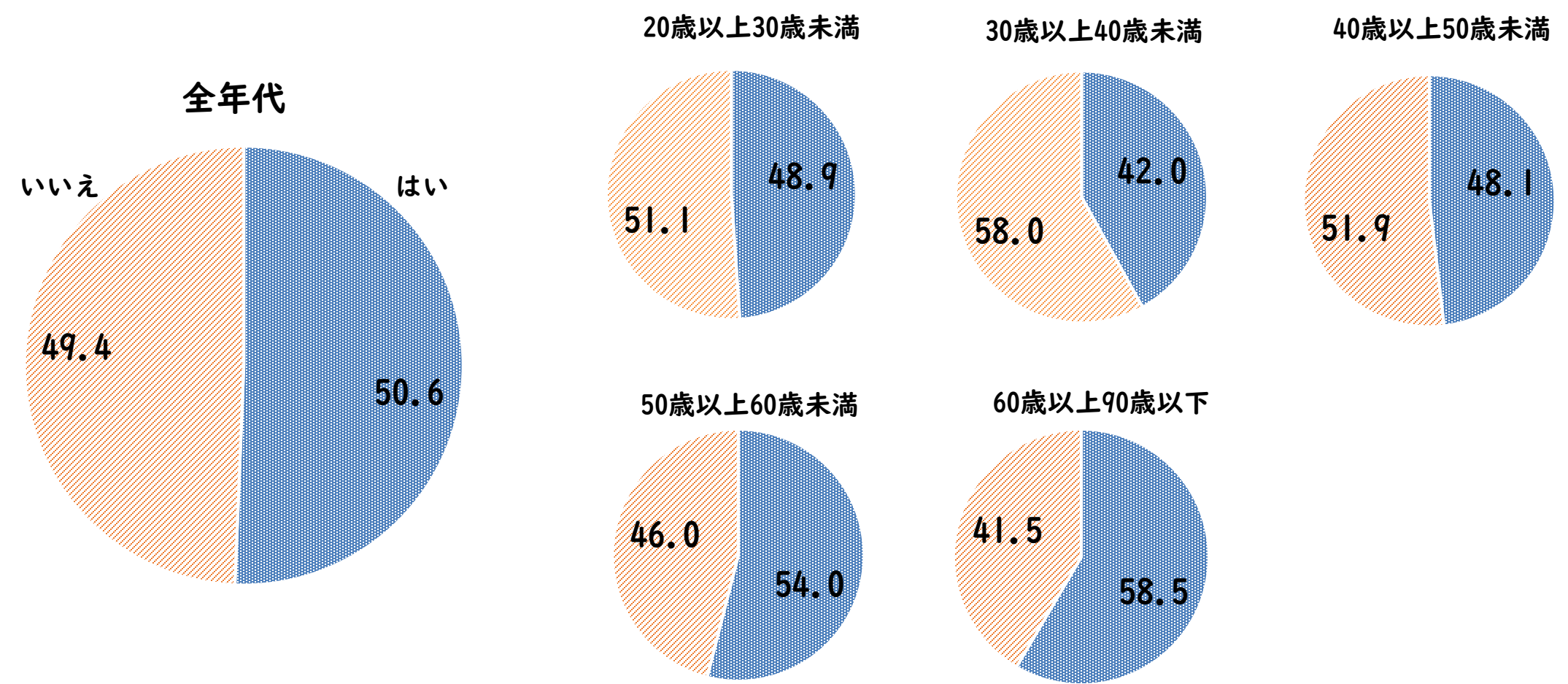
■ 「非常に不安」、「少しは不安」は、全体で約6割。年齢層が高くなるほど、不安を感じる人が多い傾向にある。

「Jアラート」（「全国瞬時警報システム」の通称）について知っていますか。（単位：％）



■仕組みまで認知しているのは約4割。年齢層が高くなるほど認知度は高い傾向にある。

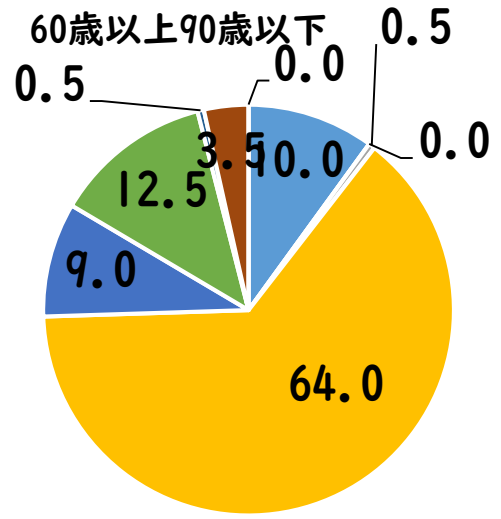
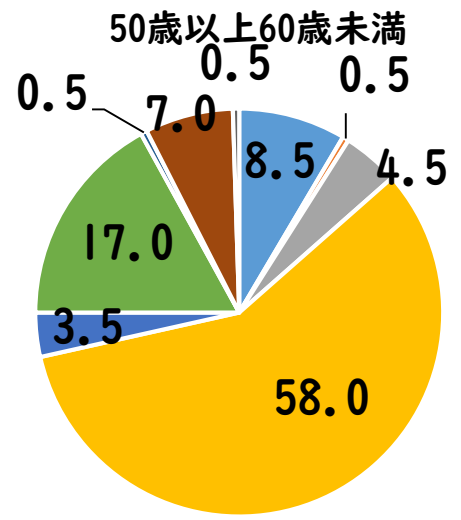
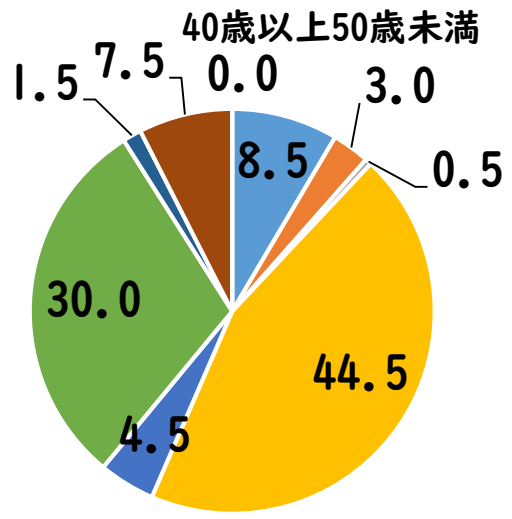
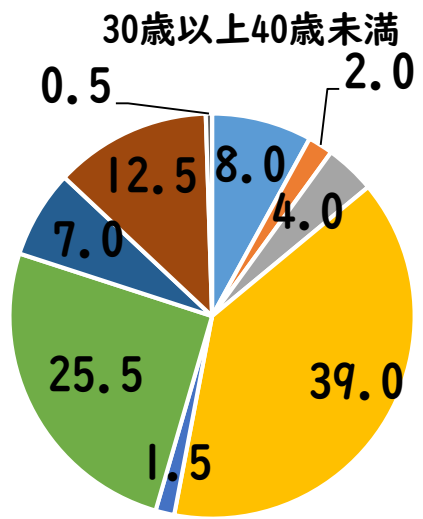
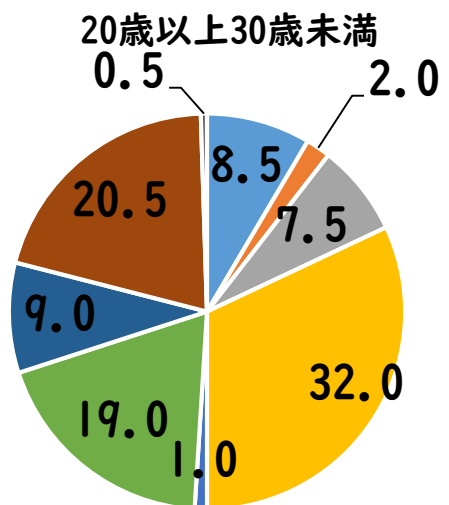
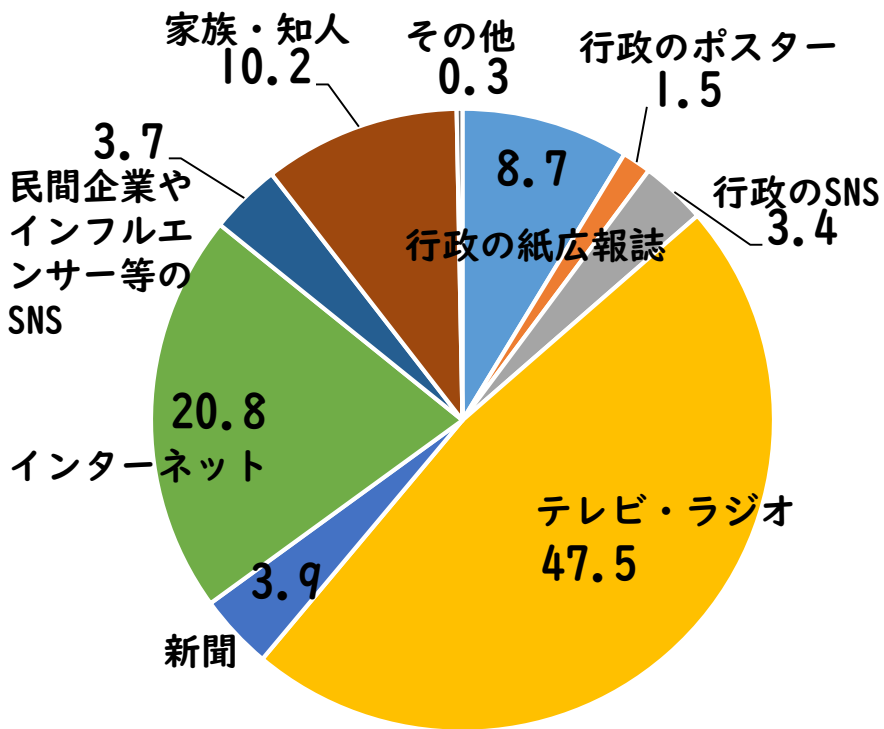
【Jアラートの名前も仕組みも知らない人は回答対象外】
弾道ミサイルが飛来する可能性がある場合にJアラートを通じて緊急情報が流れた際、
とるべき行動をいつでも知っていますか。（単位：％）



■Jアラートを認知している人でも、取るべき行動を知っている人は約5割。

普段、災害への備えなど防災・危機管理に関する情報を何から一番よく知りますか（単位：％）

全年代



- 各年代で「テレビ・ラジオ」、「インターネット」が大きな割合を占めている。
- 行政の「紙広報誌」、「ポスター」、「SNS」のなかでは「紙広報誌」が最多。